福祉文教委員会　視察報告書　　令和６年 11 月６日（水）～11 月７日（木）　　神奈川県

福祉文教常任委員　小出嶋　文雄

1　神奈川県大和市　大和市立引地台中学校分教室
　「学びの多様化学校（不登校特例校）について」

大和市では、様々な理由で地域の学校に登校していない子どもが、自らが描く夢に向かって、自分らしく輝いてほしいという願いのもと、不登校の中学生の社会的自立を目指し一人ひとりの子どもの個性や状況を大切にできる支援の場をつくるため、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）として「引地台中学校分教室」を開室している。

子ども一人ひとりの状況にあった柔軟で適切な学習機会の場となるよう、学習や学校生活を分教室の先生といっしょに考え、自分らしい中学校生活を送ってもらうため、県内公立校初の不登校特例校分教室それぞれの生徒の状況に合わせた学習計画のもと、教育活動が行われている。

生徒の選択肢が増えるよう、学校への復帰を目標としない、新たな学び場である。

所感：子供たちがのびのび生活できていた。ここまでもっていくには相当な研究ととコンセンサスが必要と感じた。

2　神奈川県川崎市　川崎ラクシル（官民共同運営）施設見学
　「運営面の仕組み、評価課題などについて」

川崎市複合福祉センター「ふくふく」は、「高齢者や障害者の在宅生活支援の推進」を基本目標とし、川崎区日進町の川崎市福祉センター跡地に整備した市と社会福祉法人三篠会による官民複合施設です。

川崎市の施設として、総合リハビリテーション推進センターの他、南部リハビリテーションセンター、ひきこもり地域支援センター等の施設が運営されています。

社会福祉法人三篠会の施設（川崎ラシクル）として、特別養護老人ホーム、障がい者支援施設、看護小規模多機能型居宅介護、訪問介護看護、事業所内保育園を運営されています。

管理委託、指定管理でもなく、土地は川崎市、建物はそれぞれが購入して運営しており、共有部分などは管理組合が管理しています。

所感：８階建てのビルに、高齢者から子ども、障がい者まで総合型の施設が一つの建物にあり、建物の建設からそれぞれの資金で行う新しい方法が興味深かく、運営もそれぞれの強みを生かした運営ができ住民に対してもメリットがあると感じた。

3　神奈川県川崎市　川崎市子ども夢パーク
「子供の権利条例との関係、行政のかかわり」

「子どもたち一人ひとりが大事にされなければならない。」それを実現するために、「川崎市子どもの権利に関する条例」がつくられ、夢パークは、2003 年 7 月に川崎市がこの条例をもとにつくった施設であり、子どもがありのままの自分でいられる場、多様に育ち、学ぶ子どもの居場所、自分の責任で自由に遊ぶ場、つくりつづけていく場、子どもたちが動かしていける場です。そのような居場所として存続するように支えている多くの大人たちの姿があります。パークでは子どもが「やりたい」と思ったことにチャレンジできるように、できるだけ禁止事項をつくらないで「自分の責任で自由に遊ぶ」ことを大事にしています。子どもの「やりたい」気持ちを軸に毎日変わっていきます。子どもも大人も利用しているみんながつくり手になり、つくりつづける施設なのです。としています。

- プレーパーク…水や泥で自由に遊べる、外のスペース
- スタジオ…バンドや楽器の練習に使える防音スタジオ
- ゆるり（優流里）…乳幼児親子さんの優先のお部屋
- 全天候広場″たいよう″…雨の日も OK！屋根付きスポーツエリア
- 交流スペース″ごろり″…ごろりと自由に過ごせるカーペット敷きのお部屋
- 創作スペース…机とイスが置いてある、１階の屋根あり壁なしスペース
- 屋上広場…日当たりのよい屋上スペース
- ログハウス…プレーパークエリアでちょっと休憩したい時はここへどうぞ

所感：夢パークの中に、「子供はだんだん人間になるのではなく、生まれた時から人間である」という言葉がありました。夢パークは子供たちの居場所の理想な場所と感じたが、それを支える大人たちの仕組みと努力が不可欠だと感じた。支えるのも人である。